（2頁よりつづく）

の後のフォロー体制、また企業および面接官の公正な採用選考の周知徹底と指導をおこなわなければ、抜本的な解決にならないと指摘した。

【農林水産部】

部落の農家は極めて厳しい状況であり、新規事業での経営が困難であることを強く訴えた。また、旧同和対策事業で建設された施設の状況を把握し、農林漁業共同利用機械設備更新や風水害や地震によって共同倉庫・共同農機具・ハウス等が被災した場合の対応についても要求した。県は「零細的な農家を守るためには、新しい施策建設や後継者の育成を真っ先に考えることが重要であり、農林水産部としては、法律が切れたなかでも、課題別でとりくんでいく」と回答した。

【県土整備部】

各現場を見にいっていないことについて質すと「声をかけてもらえば行くつもりだった」と回答し、県の消極的な姿勢があきらかになった。現場の実態把握したうえで、市町村と協力し、差別をなくすことが目的であると再認識してほしいと強く要求した。個人情報の扱いについては、情報のもち出し禁止やPCへのアクセス制限など適切な管理をおこない、情報の扱いについて職員に徹底していると回答。土木業者育成については、各ブロック別に日をあらためて個別の話内をもつことを確認した。

【教育委員会】

学習支援教員の役割を再度明確にし、同和問題を中心とした人権教育をすすめていくよう要求した。また、同和教育推進教員から学習支援教員に名称が変更するときに、当時の教育委員会と同推の役割と任務は損なわれることがないと確認したが、現状は衰退の方向にあるのではないかと参加者から厳しい意見がだされた。県は同和問題の現状について周知に努めるとともに、各学校において子どもの実態、地域の実情を十分に把握し、解放教育を学校全体で推進できるよう、指導していくと回答した。

研究集会にむけて最終詰め

白浜　啓発集会

第27回人権啓発研究集会・第13回和歌山・人権啓発研究集会の第4回現地実行委員会会議が1月16日、鷺ノ森別院でおこなわれた。集会の開催にむけた最終会議となり、各団体の実行委員会から29人の参加で協議した。

辻健二・研究所事務局長の司会で、藤本哲史・県連書記長から「和歌山県水平社90周年を迎え、記念すべき年になる。是非、集会の成功にむけて頑張ってもらいたい」とあいさつがあった。

最終の詰めでは、各団体からの要員任務や開催要項の説明、現時点でのフィールドワークの参加状況、開会行事の出欠状況などについて協議事項が確認された。

最終の打合せをした

岩出市議会議長選挙

1月27日、岩出市市議会選挙の開票があり、県連の組織内選挙である吉本勧曜・県委員が1180票で当選を勝ち取った。また、推薦候補の池田清吾さんは、残念ながら落選となった。

主張

「本人通知制度」の早期制度化にむけて

安倍政権が発足して2カ月が過ぎようとしている。アベノミクスによって株価の上昇と円安がすすみ、経済に活況がみられている。また、大型補正予算と公共事業の大幅な増額が景気に一定の期待感をもたせている。今、春闘がまったただなか、労働者側が賃上げとボーナスのアップを要求し、経営者側との交渉がはじまっている。大企業を中心に「内部留保金」が400兆円を超えるとも言われているなかで、労働者の賃上げにはシビアな対応をとっている。そもそも「内部留保金」は、企業の利潤であり本来なら労働者に分配すべき性格をもつ。「労働者派遣法」を改悪し、非正規雇用や派遣などにみられるように低賃金雇用の仕組みがつくられている。

私たちは、部落差別の存在意義のなかで、労働者の低賃金、定生活のしずめ石の役割を果たさせられていると位置付け、企業の超過利潤の追求のため部落差別が利用されてきた。まさに今日の「労働者派遣法」は、大企業の利潤追求の制度として利用されている。そして、正規雇用者と非正規雇用者の間に分断をもち込まれている現状がある。

私たちは、部落解放共闘会議を結成し「部落の解放なくして労働者の解放なし」「労働者の解放なくして部落の解放なし」を基本にすえ、今日まで闘いを展開してきた。

部落の生活実態は相変わらず「しんどい」状況が続いている。和歌山県が「人権課題現況調査」でもあきらかにしているように、就労は不安定な実態にあり、教育においても格差の存在が提起され、また「無年金」の実態や「生活保護」の実態があきらかにされている。

このようななか、部落に対する差別事件はあとを絶たず、戸籍謄抄本、住民票などの不正取得事件の多くは身元調査に悪用されていることがあきらかになった。昨年末からとりくんでいる「本人通知制度」制定の闘いは、本年3月までに一定のめどをつけなければならない。各支部は市町村行政に対して「本人通知制度」の早期の制度化を求めて一層奮闘することを要請する。

狭山事件を考えよう

狭山事件を初めて知ったのが、事務所に入社したときです。私もまだ若いピチピチギャルでした。狭山事件の内容については、狭山パンフを読み、こんな大きな事件が起こっていたのかと思いました。

そして、5・23、10・31は毎回200人ぐらい和歌山から動員がかけられ、大型バスに乗り乗り込んで東京へと向かった思い出があります。バスのなかには、座席は補助席まで埋めつくされ、トイレ休憩で止まるときが、補助席をあげていっせいに乗っている人はトイレ休憩にでます。そんな繰り返しで、東京に着くまでバスのなかにはにぎやかです。そして、東京に着いてからもまだ大変です。全国から何千人という参加動員があり、トイレをするのに近くのトイレは満員でなかなかできません。周辺の喫茶店や店員さんをさがして歩きまわった思い出だけが残っています。そして、集会に参加して石川一雄さんの両親が舞台に立ってあいさつをしていました。かわいらしいお父さんとお母さんが「一雄は無実です。皆さんとともに無実を訴え、皆さんとともに頑張って一雄が私たちのもとへ早く帰ってくることを願っています」全国から参加した皆さんのご協力をよろしくお願いします。という言葉が印象に残っています。今は、ご両親も他界され、石川一雄さんと連れ合いさんとがいつも一緒に全国をまわって無実を訴えてる姿を見ていると、1日でも早く自由の身になることを私たちは闘っていくことだと思いました。

（松田康子）

文化の窓

「ふくしまに生きる　ふくしまを守る」

不覚にも1ページ目で読めなくなってしまった。本当に多くの命の最期が記され、涙を抑えられなくなった。子どもを失った母親の一言で本を閉じてしまった。東日本大震災で多くの命が失われると同時に、アンサングヒーローによって多くの命が救われた。時とともに薄れつつある大震災の記憶を、もう一度思い起こしてほしい。

（担当者所感）

■お問い合わせは県連・教宣部まで
TEL 073-473-2301